

## 14. 二回抜取検査の一方式

遠藤 健児

二回抜取検査において、手間や費用に関する考慮から、第一及び第二の標本の大きさの比を予め指定する場合が考えられる。

第一及び第二の標本の大きさを夫々  $k_1n$ 、 $k_2n$  としたとき、  
( $k_1 = 1$ 、 $k_2 = \frac{1}{2}$ ) の場合及び ( $k_1 = \frac{1}{3}$ 、 $k_2 = 1$ ) の場合を例にとつて、消費者並に生産者保護の立場から與えられる通常の条件の下で、必要  $n$  を求めるための数値表の作成法と、その結果の一部を示した。

詳しいことは追つて本講究録に発表する。

## 15. 住宅調査

内田 良男

塩原 由郎

都市住居の実態の地域的分布、不良住居とその密集する地区的分布を求め、それを住宅、都市、環境衛生計画等の面における対策を樹立する基礎資料とする目的で住居の質を測定評価しようと試みた。

社会的に客観的に測定評価するのに建物及び設備関係に21項目(最高減点360点)、維持関係に4項目(全220点)、居住関係に5項目(全120点)を設け各項目における評価基準を詳細に具体的に定義し且つ配点した。

- (1) 統計的に独立な評価項目を求めて評価法を簡単にする。
- (2) 評価対象が変つた時に評価基準を修正する方法

- (3) 測定結果が確率的に有意であるためには如何なる條件を附  
属させるかについて数理統計学の立場から研究したのが本論  
である。

## 16. 主訴と診断について

崎野 滋樹

従来のように疾病の形態的の異同のみによる分類より更に進歩  
して、家系、出生順位、既往症との関連に於て又入院後の診断と  
の関連に於て主訴による診断の新しい分類を試みようというのが  
本予備調査の主たる目的である。併し調査人数の小なる爲主訴  
による系統的分類表を作るまでに至らなかつたが、次の事は大体  
確かなようである。

1. 乳児、幼児の結核は殆んど家庭内感染である。
2. 疾病と出生順位間には有意な相関が存在する。
3. 主訴と予後の関係については早産、分娩異常のとき最も不  
治、死亡の疾病にかゝり易い。先天性白痴とカリットル  
氏病は殆んどこの主訴によつて起る。
4. 白血球 1,2000 以上の疾病を調べた結果伝染病（結核を含  
む）が 50 %、百日咳肺炎が 13 % という結果を得た。  
又白血球の 6000 未満の患者は殆んど腸チフス患者であ  
った。
5. 貧血（ヘモクロビン値が 70 % 以内のもの）患者の疾病  
分類を行つた結果、伝染病による貧血 55.4 %、消化不良  
10 %、Leukämie 10 % という結果を得た。